

減らせ突然死 AED推進フォーラム 2020

コロナ時代における
救命のニューノーマル



公益財団法人

日本AED財団

ご挨拶



名誉総裁 高円宮妃殿下

誰もが想像できなかった一年となりました。新型コロナウイルス感染症で命を落とされた方々を悼むとともに、感染症の後遺症や様々な社会情勢の変化に苦しんでおられる方々にお見舞い申し上げます。また、医療現場で働いているおられる方々や私たちの生活を支えるために働いてくださっているエッセンシャルサービスに従事する方々に心より感謝申し上げます。

今年のAED推進フォーラムは、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、これまでと異なる形で開催されることとなりました。取りやめることも可能だったでしょう。ただ、このような中でもAEDを必要としている方、これから必要になる方がいらっしゃることを思えば、どのような形であれ、開催されるのは大変喜ばしいと考えます。

ここ数年、AEDに関する報道が増えているような気がしております。AEDの普及台数もさることながら、使用して実際に救命するにいたった事例が多くなったためでしょう。あるプロ野球球団のコーチが、地下鉄の駅構内でAEDを用いて人命救助に成功しました。この球団では、かつてグラウンドで命を落とされたコーチがいらしたためプロジェクトを立ち上げ、コーチや選手が心肺蘇生の方法、AEDの使用法の講習を行っているそうです。

今回、救命にあたったコーチもかつての同僚の死を無駄にしないようにと真摯に取り組み、心肺蘇生の資格も取得し、頭だけでなく訓練を繰り返して体に叩き込んだそうです。日本AED財団としては、スポーツクラブや学校の部活などにアピールしていくことの重要性を実感する出来事になりました。

止まった心臓を再び動かすというのは奇跡的なことです。医師が来るのをただ待つのではなく、少し早く私たちが行動すれば、勇気をもってAEDを使用すれば、一つの命を救うだけでなく一つの人生を救うことにつながります。

Withコロナの時代はこれからしばらく続くと思われます。皆様におかれましてはお身体をくれぐれも大事になさってください。

減らせ突然死

AED推進フォーラム2020開催にあたって



会 長 古川 貞二郎



副会長 岡本 保



理事長 三田村 秀雄

コロナという未曾有の国難の中、いつも通りの生活を営めず、思うような活動ができずに苦しんでおられる方々が多いことと推察致します。昨年末に公益財団法人となり、さらなる飛躍を目指す日本 AED 財団が主催する「AED 推進フォーラム」も、このコロナ禍の中、恒例の大会形式での開催は控えることといたしました。しかし、だからといって救命のための努力を絶やすことがあってはならず、下した苦渋の決断がビデオ収録による無観客開催というものでした。そのような厳しい状況にもかかわらず、ごあいさつのお言葉をお寄せいただきました高円宮妃殿下には深く御礼申し上げます。

今回の AED 推進フォーラムでは、テーマを「コロナ時代における救命のニューノーマル」といたしました。コロナの蔓延する中、人類が生き残るためには医療や検査体制の充足だけでなく、国民の協力が欠かせません。その協力を促す手段として発熱時の行動指針、予防のためのマスクや手洗いの推奨、あるいは感染経路追跡アプリの活用といった戦術が必要となります。まさに同じような仕組み作り、仕掛け作りが救命においてもあてはまるのではないのでしょうか。

倒れた人に遭遇した市民は、とっさにどのような Action をとるべきか、その指針がまず求められます。また、緊急時の行動を促すアドバイスや平時からの心構えといった Emotional な意識誘導も効果を発揮します。さらには、AED の位置確認やそれに基づく周囲の駆けつけを IT 経由で促す Digital 革命も、これからの時代には有用となるものと期待されます。この Action、Emotional、Digital という 3 つのキーワードの頭文字 A、E、Dこそが救命を成功に導くための新しいカギであると考えています。

本フォーラムでは財団のメンバーを中心に、A、E、D に沿った救命のニューノーマルを紹介し、その課題や推進について議論を交わしました。そこから少しでも多くのことを学んでいただき、それを機に救命の輪をさらに広げることができれば主催者としてこの上ない喜びであります。財団が取り組んでいます AED の推進にご理解いただき、その普及啓発に引き続きご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020 年 12 月

公益財団法人日本 AED 財団

会 長 古川 貞二郎

副会長 岡本 保

理事長 三田村 秀雄

プログラム

1 **A**ctionプラン

市民のための救命マニュアル：ASUKAモデル

桐淵 博

公益財団法人日本AED財団 理事 / 元・さいたま市教育委員会 教育長

2 **E**mootionalアプローチ

市民を動かす啓発

◇ 言葉の工夫

三田村 秀雄

公益財団法人日本AED財団 理事長 / 国家公務員共済組合連合会立川病院 顧問

◇ 視覚のイメージの工夫

成田 倫史

株式会社大広WEDO クリエイティブディレクター

3 **D**igitalトランスフォーメーション

市民をつなぐスマホ：救命へのIT活用

石見 拓

公益財団法人日本AED財団 専務理事 / 京都大学健康科学センター 教授

4 総合討論

次世代に向けた救命の仕組み作り

司 会

武田 聡

公益財団法人日本AED財団 常務理事 / 東京慈恵会医科大学救急医学講座 主任教授

松岡 康子

公益財団法人日本AED財団 実行委員 / NHK名古屋放送局 記者

ディスカッサー

桐淵 博 / 三田村 秀雄 / 成田 倫史 / 石見 拓

市民のための救命マニュアル：ASUKA モデル

桐淵 博

公益財団法人日本 AED 財団 理事
元・さいたま市教育委員会 教育長

ASUKA モデルは、平成23年に起きた桐田明日香さんの突然死の教訓をもとに、体育活動時などにおける重大事故を防止するために作られたテキストです。明日香さんの事故分析から、突然死ゼロを目指すうえで、現在にも通じる大きな課題が浮かび上がってきました。

それは、人が倒れたとき、すぐに、誰もが、そしてみんなが迷わずにできる救命活動のAction プランを明らかにし、広げることの重要性です。そのために大切なのは、分かりやすく簡単なマニュアルはもちろんですが、同時に、学んだスキルを“他人事”で終わらせないために、リアリティを伴った理解を図ることです。明日香さんのような事例やデータを通じて、元気な人でも突然の心停止が起こりえること、そして、救急車が来る前に周囲にいた人が動く重要性、それを共感的に理解することがとても大切だと思います。さいたま市や近隣の学校では、ASUKA モデルを学ぶことによって何人もの人が救われてきました。

公益財団法人日本AED財団では、ASUKA モデルをコンパクトにまとめた学校版のEAP（Emergency Action Plan）を作成し、ホームページからダウンロードできるようにしてその普及に力を入れています。また、体系的な救命教育を推進するために、小学生用のテキストを作成し、授業で活用する際に必要な部数無償で提供しています。さらに、小学校での授業公開を軸としたスクールフォーラムを開催してきました。

こうした中で、全国的にも、子どもたちが活躍する救命事例がたくさん見られるようになってきました。小学生や中学生が自宅で倒れた家族を救った例や、学校や町の中で倒れた人を救うために大活躍した子どもたちもいます。

新しい学習指導要領では、中学校と高等学校の保健体育科で、心肺蘇生やAEDについて実習を通じてしっかり身につけるよう内容が大きく強化されました。小学校においても保健の教科書にASUKA モデルや救命処置が取り上げられるようになりました。

学校できちんと教えるとともに、職場でも地域でも講習が盛んになり、AEDがさらに普及してゆけば、救われる命は間違いなく増えていきます。そして我が国には、人が倒れたときに当たり前のように皆で助け合う、あたたかい社会が到来するものと考えます。

Emotional アプローチ

市民を動かす啓発 言葉の工夫

三田村 秀雄

公益財団法人日本 AED 財団 理事長
国家公務員共済組合連合会立川病院 顧問

救命を成功させるには、現場に居合わせた多くの市民の協力が必要ですが、その市民が Action Plan 通りに動いてくれるという保証はありません。そこで必要になってくるのが、不慣れで尻込みしている市民に一歩踏み出させるための Emotional アプローチです。

伝わる言葉

救命には専門用語が数多く出てきますが、なかでも「胸骨圧迫」という言葉はなかなか受け入れ難いようです。胸骨なんて知らないし、それを圧迫する、といわれてもイメージがわかりません。胸の左側を押すとあばら骨が折れてしまうために選ばれた言葉かもしれませんが、心臓が真ん中にあることさえ指導すれば、馴染みがあって上下のピストン運動を連想させる心臓マッサージの方が相応しい気がします。

解説には短い表現が好まれますが、そこにも落とし穴があります。例えば「AEDが届くまで胸骨圧迫をしましょう」という表現がよく使われますが、AEDが届いたら胸骨圧迫はもう止めてよい、と誤ってしまいう人が実際にいるため注意が必要です。

また、一般の方に救急処置を「すぐに」といってもなかなかピンときません。119 番でしたら30 秒以内に、AEDショックでしたら3 分以内に、といった具体的な指導が親切と思います。

背中を押す言葉

「大事な人の命を救えますか」とか、「あなたでも救える、いや、あなたしか救えない」といった市民の背中を押すようなキャッチコピーはとても効果的です。「完璧でなくてよい」「何をやっても今より悪くはない」「わからなくてよい」という表現も有効です。わからなければ119 番が電話で教えてくれる、AED も音声で教えてくれるので慌てなくてよいわけです。このように市民を emotional に動かす言葉はなるべく短く単純で、メッセージが伝わり、そして良心に迫る表現であることがポイントといえます。

「自分でも救える命がある」「救命法は知っているだけでなく、できるように」という救命を見事成し遂げた巨人軍の会田有志コーチの言葉は、是非胸に刻んでいただきたいメッセージです。

市民を動かす啓発 視覚のイメージの工夫

成田 倫史

株式会社大広 WEDO クリエイティブディレクター

「減らせ突然死AED 推進フォーラム」のAED のEmotional アプローチについて、市民を動かすにはどのようなことが必要か？ 市民に対する啓発活動には何を行えばよいのか？ クリエイターの立場から、「視覚のイメージの工夫」をテーマにご説明いたします。

これまで私は、名古屋を拠点にクリエイターとして活動してきました。偶然、2010 年に日本心臓財団を担当したことがきっかけでAED 推進に携わるようになりました。その後、日本AED 財団理事長の三田村秀雄先生、専務理事の石見拓先生をはじめとする皆様にお声がけいただき、AED 財団の前進である「減らせ突然死プロジェクト」の立ち上げに参加いたしました。AED 大使の青木まり子さんの楽曲『君の瞳』をバックミュージックにしたAED 啓発メッセージビデオ『心止村湯けむり事件簿』、WEB サイトおよびロゴマーク制作など多くをお手伝いさせていただいているうちに、どのようにしたら一般市民の方にAED に興味を持ってもらい、かつ心を動かすことができるかを、その時々課題とともに考えるようになりました。市民を動かすためのEmotional アプローチとしての視覚のイメージの工夫には、「自分事化」「リアリティ」「インサイト」という3つの要素がポイントです。

一つ目は「自分事化」です。自分が行動を起こさなくても誰かがやってくれる、医療知識のある人に任せれば良い、という感覚は人として至極当然です。しかし、AED は一般市民が使えるように開発された機器です。自分事化し、自らが行動できる世の中に向かわせたいものです。

次に「リアリティ」です。座学があれば実習があり、その次は目の前で起こる現場判断力が試されます。目の前で起こるかもしれない事象に対して判断力をつける疑似体験を追求するリアリティはとても大切です。

最後に「インサイト」です。インサイトは、直訳すると「行動意欲を促す潜在的な欲求のスイッチ。社会が置かれている環境を理解し、共感という灯りをつけるスイッチ」という意味です。何をどう伝えれば、一般市民の方が共感の灯りをつけるスイッチを押すようになるのか？をよく考えるとよいでしょう。

世の中はコロナ禍で、人と人とのコミュニケーションが改めて試されようとしています。当たり前のように顔を合わせながら行ってきた活動がリモート化を余儀なくされ、新しい日常をどのように作り上げていくかが日々課題になっています。この時代に身を置くものとして、目的をどのように設定し、ターゲットをどこに置き、どのような場所でどのような空気感の中で啓発活動を行っていくべきかを一歩ずつ考えることで、伝えるだけの一方通行のコミュニケーションから相手に伝わる、行動を起こすコミュニケーションへとつながります。少なくとも私はそのように信じています。

市民をつなぐスマホ：救命への IT 活用

石見 拓

公益財団法人日本 AED 財団 専務理事
京都大学健康科学センター 教授

あまり知られていませんが、日本の病院前救急医療体制は世界トップレベルです。119 番通報すれば全国どこでも短時間で救急車、救命のプロである救急救命士が来てくれますし、救急医療機関に短時間で搬送してくれます。しかし、救急車が到着するまで約8分。心停止では1分、1秒を争って電気ショックを行わなければならないため、救命には現場に居合わせた人による心肺蘇生とAEDが必要不可欠です。日本では、2004年から市民もAEDを使うことが可能になり、現在では60万台を超えるAEDが設置されているといわれていますが、心停止を目撃されたケースでもAEDで電気ショックを受けることができたのはわずか4.9%に過ぎません。

AEDを活かして救命するためには、AEDを使った救命処置ができる人を増やす、学校教育などの取り組みに加え、AEDが早く現場に届く仕組みの構築が求められます。そこで、スマートフォンを活用して、心停止の現場に迅速にAEDを届けるシステムに注目が集まっています。我々は、「AED GO」と呼ばれるシステムを開発し、現在愛知県の尾張旭市と千葉県柏市で実証試験を行っています。徐々に登録者数が増加しており、救急隊より早く現場に到着し、心肺蘇生を実施した事例も出てきています。同様の取り組みは世界中で広がっており、シンガポールでは、市民が行った心肺蘇生の2割以上はスマートフォンのシステムを通じて駆けつけたことによるものと報告されています。

今後はこうしたシステムを活用することで、AEDの使用率アップ、心肺蘇生実施率アップによる救命率向上、安心・安全な街づくりにつながることを期待されます。AEDをすべての心停止現場へ届けることができる社会を目指して、是非、皆様も「みんなで作るAEDマップ AED N@VI」「救命支援システムAED GO」にご協力ください！

総合討論

次世代に向けた救命の仕組み作り



司 会
武田 聡



ディスカッサー
三田村 秀雄



ディスカッサー
石見 拓



司 会
松岡 康子



ディスカッサー
桐淵 博



ディスカッサー
成田 倫史

武田 「次世代に向けた救命の仕組み作り」をテーマに座談会を開始いたします。司会は、日本 AED 財団理事の私、武田聡と実行委員の松岡康子が務めます。

松岡 よろしくお願ひいたします。

武田 日本 AED 財団では、Action、Emotional、Digital、それぞれの頭文字をとって「A」「E」「D」になりますが、この3つの言葉こそが救命成功のための新たなキーワードと考えています。まず、「A」の Action プランについてお話を伺います。

桐淵 体育活動時などにおける事故対応テキスト「ASUKA モデル」の経験をもとにお話させていただきます。ASUKA モデルの最大の特徴は、分かりやすく、簡単に、

これなら自分でもできる、と思わせるマニュアルになっていることです。しかし、マニュアルを作成しただけでは意味がありません。では、私たちはどのような Action を起こせばよいのでしょうか？

私は明日香ちゃんのお母さんとともに、主に教職員を対象に全国で講演を行っています。会場のアンケートで、「今、目の前で子供が倒れたら、あなたは AED を使って救命活動ができますか？」という質問をすると、さいたま市とさいたま市以外の教職員では、「できる」と答える割合に大きな差があります。その差の背景にあるのは AED 講習の受講回数です。さいたま市の教職員は、学校内での研修や講習をさいたま市以外の教職員よりも多く受けています。

しかし、さいたま市以外の教職員でも、私たちの講演を聞いた後は、「救命活動への自信がとて高まった」「AED や心肺蘇生、胸骨圧迫の効果の大きさがわかった」「AED を

使うと症状を悪化させてしまうかもしれないと危惧していたが、その心配はないとわかった」と答える人がほとんどです。つまり、単に実技を習うだけでは十分な自信は形成されず、事例などを含めたリアリティのある講習が大切ということです。

このように、子供を守らなければならないという意識の高い教職員であってもまだ不十分です。私たちは、こうした現状を打破するための Action を起こしていく必要があります。

石見 私はガイドラインを作る立場にありましたが、最も衝撃を受けたのは、事故の直前に先生方が AED の講習を受講していたという事実です。受けていたのに行動を起こせなかった。つまり、従来のフローチャートや講習での教え方、訓練方法には、Action を起こさせるリアリティが欠如していたということではないでしょうか。

三田村 私も ASUKA モデルにはごく初期の頃から関わっています。従来のモデルと異なるのは、まず悲劇的なエピソードが存在し、出発点でそれを皆が共有していたために、一定の感情の統一性が存在したということです。

講習を受けたにもかかわらず、スムーズに対応できなかった要因は何であったのか？呼吸の見方などに関しても丁寧な指導がなされていませんでした。そうした反省を経て作成されたマニュアルは、例えば倒れている人を発見したときの対応法が、「Yes or No」ではなく、「Yes or No、あるいは分からない」となっています。分からない場合にはどう対応すればよいかを盛り込むことで、ASUKA モデルは一般市民の目線により近づいたものになり、Action が起こしやすくなっています。

武田 明日香さんのビデオの制作するうえで、特に気にかけたことは何でしょうか？

成田 桐田さんご夫妻とお話をして、「明日香さんの死を無

駄にしない」「二度とこうした事故が起きないように」という強い気持ちが心の奥底から湧き上がりました。特に気にかけた点があるわけではなく、その湧きあがった想いを作品に込めました。そうした思いこそが、私たちに Action を起こさせる源になると考えています。

武田 Action を起こさせるためには、リアリティの必要性、一般市民の目線に立つことのほか、Emotional な要素もあるということですね。では、「E」の Emotional アプローチについてお話をいただきます。救命が必要な現場に直面した一般の方々が、実際に行動を起こせるようにするために、日本 AED 財団はどのような活動を行えばよいのでしょうか？

三田村 我々医療関係者が考える「こうしたら一般の人は行動を起こす気持ちになってくれるだろう」というような前のめりになった考え方は、必ずしも正しいわけではありません。なぜならば、現実の場面では、パニックになっているのが通常と考えられるからです。

成田さんが紹介されたビデオに救命を成功させた女性が登場していましたが、その方は「心のスイッチが入った」と仰っています。スイッチが入った背景には何があったのでしょうか？この女性は救命講習を何度も受けていました。また最近の出来事ですが、巨人軍コーチの会田さんが救命に成功したときも「比較的迷いなく動くことができた」と仰っていました。この場合も、何度も講習を受けていたという背景が存在していました。「3回受けたら自信がついた」というお話でしたから、1回講習を受けた程度では自信をもって行動を起こすのは難しいということです。

緊急の場面では、人は反射的に動きがちです。事前に一連の救命動作を経験したという事実が重要になります。まず前段階として、救命講習に行こうと思わせる、きっかけ作りが大事です。

武田 では、どうしたら救命講習に行こうかな、と思わせることができるのでしょうか？ そのためのアプローチにはどのようなものがあるのでしょうか？

松岡 私は記者として救命事例を扱うことが多いのですが、具体的なストーリーを伝えることで、「私たちでも救える」と感じてもらいたいと思っています。

救命講習の講師が「完璧でなくて良いですよ」と指導することも重要です。完璧でなくても人を救うことができるというメッセージは、救命のための Action を起こす意欲を高めるとともに、救命講習への参加意欲も高めると思います。

成田 多くの方から AED のボタンを押すのが怖いという声を聞きます。私も同僚が倒れたために AED を使用した経験があります。想像を絶する恐怖を感じましたが、講習を受けていたからこそ、一歩踏み出せました。ただ、問題となるのは無関心層です。無関心層の意欲を高めるためには、どうしたらよいか考える必要があります。

石見 実際に救命現場に立ち合うと、ほぼ 100%の方が一瞬は躊躇します。私も病院外で、例えば新幹線や飛行機のアナウンスで呼ばれるということを何回か経験していますが、どうしても一瞬躊躇します。医師であってもそうなのですから、「躊躇するのが当たり前」「完璧じゃなくても良いですよ」ということを意識的に伝えることは重要です。

講習会でもこうした考え方が出てきたのは最近です。10～20 年前は、上手にやりなさいと教えていました。それが、「完璧に行くことよりも、まずは行動を起こすことが重要だ」という考え方に変わってきました。

こうした意識改革は、明日香ちゃんの事故によるところが非常に大きかったはずです。あくまでも行動を起こしてもらうのが目的、目標ですから、敷居を高くしてはいけません。「AED が指示を出してくれる」「迷ったら、AED に聞けば良い」というメッセージを繰り返し発信していくことが、

Emotional アプローチには大切だと思います。

三田村 妃殿下にもご案内いただいた AED のミニチュアには注目をしています。

小さいにも関わらず精巧に作られています。触って、開けて「こんな構造だったのか」と知ってもらえれば AED が身近に感じられ、考えているよりも簡単に使えることに気づくはずです。別のアプローチにはなりますが、躊躇せずに行動を起こさせる一助になりそうです。

武田 次に、「D」の Digital トランスフォーメーションについてお話を伺います。

桐淵 消防庁のデータを見ると、年間 2 万 5 ～ 6 千人程度の方が心停止の瞬間を目撃されています。そのうちの 60% 近くは一般市民によって心肺蘇生が行われていますが、AED を用いた電気ショックを受けられた事例は 4.9% と低い数字でした。この数字は、日本がまだ「身近に、誰もが知っているところに AED がある」という状況になっていないことを示しています。

石見 AED の設置数はまだ不十分です。そばで誰かが倒れた時に AED を探そうと思っても、すぐには見つかりません。設置すべきところに設置する取り組みは継続していく必要がありますが、スマートフォンをはじめとする最近の Digital テクノロジーを用いて、そうした点を補っていく必要があります。

皆でイメージを作り、そのイメージを実現するようなロールモデルを作ることが重要です。例えば千葉県の柏市、愛知県の尾張旭市で実現しているシステムです。

松岡 そのシステムとは、「AED GO (119 番通報と連携し、救急車が到着する前に救命ボランティアが AED を心停止発生現場に速やかに届ける運搬支援システム)」ですね！素晴らしい仕組みです。1 市町村の単位ではなく、なぜ一気に広められないのでしょうか？

何か広められない理由があるのでしょうか？

石見 消防で119番通報を受けたときに、消防の担当者が現場の急病人や怪我人が心停止しているかもしれないと疑い、それと同時にAEDの情報を発信する必要があります。つまり、消防指令の仕組みに組み入れる必要があるため、簡単にはできません。多くの成功事例により導入する価値が認められれば、広まるはずです。

三田村 目撃者や手助けができる人の多い公共の場所において、「AED GO」は有効です。先ほどAEDの設置数の不足の話がでましたが、実際には設置されているにもかかわらず認識されていないケースも多く、それも課題です。自分の生活圏のどこにAEDがあるかを把握しておくことは、いざという時にとても大切です。そのためにスマートフォンやSNSを是非使っていただきたいと思います。

武田 気にかかるデータがあります。女性の救命率が男性より低いというデータです。

石見 データを見て「予想どおりだ」と実感しました。学校における心停止のデータによると、小学生、中学生、高校生と成長するにつれて、心肺蘇生やAEDが使われる割合が減っていました。世界的にも同様のデータがあり、これもまさにリアリティの一つです。

講習会において、「救急とはいえ、女性の服を脱がせても良いのですか?」「脱がせた後で服をかぶせて良いのですか?」という質問を受けることがあります。これはリアルにその現場を想像できたためです。そういった障壁、AEDを使うことを躊躇させる障害を一個一個潰していく、解決していくことが必要です。

松岡 倒れた方がいると聞いた男性が、AEDを抱えて現場にかけつけたところ、女性であったため使わなかったと

いう事例がありました。その結果、彼女は脳に障害が残りました。

電極を貼るところだけ素肌にすれば良いというのは、素人の私たちにはなかなか分かりません。私たちがまだ知らないこと、専門家であれば当たり前のことでも一般市民は知りません。そうした細かな点も、講習会で伝えていかないとけません。

三田村 AEDに関する知識も重要ですが、119番には救急車を呼ぶためだけでなく、「知らないことを教えてもらう」という要素もあります。今、目の前に女性が倒れていたらどうしたらよいか、どうすべきかを、119番は教えてくれます。

桐淵 女性へのAED使用については、私も講演の際に必ず触れます。さいたま市の場合は、AEDと簡易式のテントをセットにして置いてある学校があります。また、バスタオルなどを用意し、素肌を出すときにはそれで隠すといった配慮が必要だと思います。

そもそも素肌に電極を貼ったら、すぐに服を戻してかまいません。そうしたことが頭に入るように講演では必ず話しますし、子どもたちにも教えておくことが大切です。

武田 本日は、「次世代に向けた救命の仕組み作り」というテーマで討論いただきました。

Actionプランでは次世代に向けて子供たちをどのように教育していくかについて考え、Emotionalなアプローチが教育現場では必要ということもわかりました。また、Digitalトランスフォーメーションとして、スマートフォンやSNSを活用していく重要性もわかりました。非常に貴重な討論になりました。皆さん本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

2020年度AED功労受賞者

◆ 最優秀賞 救命講習を受けたことのある小学5年生が、救いたい一心で蘇生を成功させた事例として表彰

小学生が父親を救命～救命の連鎖～

受賞者：齋藤 優輝 様 推薦者：横須賀市消防局

齋藤優輝君（当時小学5年生）は、突然目の前でお父さんが倒れるという状況に遭遇した。驚いたものの、心臓が止まったのではないかと冷静に判断して家族に119番通報をお願いし、その後も救急隊が来るまで胸骨圧迫を実施し続けた。AEDを家まで運び電気ショックを行ったのは救急隊であったが、優輝君の判断と行動、家族の連携により父親の命は救われた。

横須賀市消防局が小中学生向けに開催している「スクール救命教室」を受講していたことが、功を奏した一例である。今回の事例で小学生から救命知識を持つことの重要性が立証された。

◆ 優秀賞 市民の命を守るための献身的な取り組みとして表彰

家庭ごみ収集車へのAED搭載～市民の命を守るための取り組み～

受賞者：春日部環境衛生事業協同組合 推薦者：春日部市長

春日部環境衛生事業協同組合では、家庭ごみの収集車27台にAEDを搭載させて“走るAED”として回収作業を行っている。また、組合員に普通救急救命講習を定期的に受講させ、市民の安心・安全な生活を守る取り組みを実施している。ごみ収集中の救命事例もある。

◆ 優秀賞 市民の命を守るための献身的な取り組みとして表彰

巡回車へのAED設置・公共施設内でのAED貸出し ～町民へのAED普及推進活動～

受賞者：一般財団法人どんぐり財団 推薦者：自薦

一般財団法人どんぐり財団は、北広島町内を巡回する同財団所有の公用車すべて（4台）にAEDを搭載させて、不測の事態に備えている。また、同財団が管理している施設を利用するスポーツ団体にAEDを貸し出す取り組みの導入や一般市民向けにAEDの講習会を実施するなど、AEDの普及推進に努めている。職員と利用者の連携による救命事例もある。

受賞者には賞状と副賞として以下が授与されます。

【最優秀賞】

キヤノン ミラーレスカメラ EOS Kiss M2 (ブラック)・EF-M15-45 IS STM レンズキット (16M SD カード付き)	提供：キヤノン株式会社
ネックマッサージャー HM-150	提供：オムロンヘルスケア株式会社
サランラップ バラエティギフト	提供：旭化成ゾールメディカル株式会社

【優秀賞】

キヤノン インスタントカメラプリンター iNSPiC ZV-123	提供：キヤノンマーケティングジャパン株式会社
電動歯ブラシ Mediclean318	提供：オムロンヘルスケア株式会社
サランラップ バラエティギフト	提供：旭化成ゾールメディカル株式会社

AEDを見つけて登録 - AED N@VI -

日本では AED の設置に関する規定は存在しません。様々な団体や個人が任意で購入し、配備していますが、いざという時に備えるための設置情報の共有はとても大切です。

AED を見つけて登録することは、あなたの大事な人の命を救うかもしれません。

これがAED! 見つけたらスマホで登録

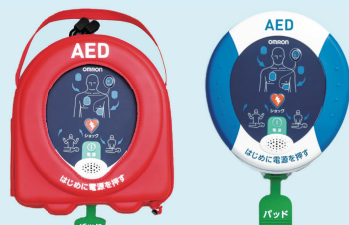
いくつか種類がありますが、
使い方に大きな違いはありません。



【旭化成ゾールメディカル株式会社】



【オムロン ヘルスケア株式会社】



【日本光電工業株式会社】



【株式会社フィリップス・ジャパン】



みんなで作るAEDマップ(AED N@VI)



スマホを使って最新の
AED情報をみんなで
共有する仕組みです。
ぜひご協力ください。

詳細はこちら▼



【株式会社CU】



【日本ストライカー株式会社】



【日本ライフライン株式会社】



減らせ突然死 AED推進フォーラム2020 後援団体・協賛企業

【 後 援 団 体 】

厚生労働省	総務省消防庁
文部科学省	公益社団法人日本医師会
公益財団法人日本スポーツ協会	日本赤十字社

【 協 賛 企 業 】

旭化成ゾールメディカル株式会社	オムロン ヘルスケア株式会社
株式会社 CU	日本光電工業株式会社
日本ストライカー株式会社	日本ライフライン株式会社
株式会社フィリップス・ジャパン	森ビル株式会社

減らせ突然死 AED推進フォーラム2020

コロナ時代における救命のニューノーマル

発 行 2020年12月

発行所 公益財団法人日本AED財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階

TEL 03-3253-2111 FAX 03-3253-2119

URL <https://aed-zaidan.jp/about/index.html>

A

E

D

ど

こ

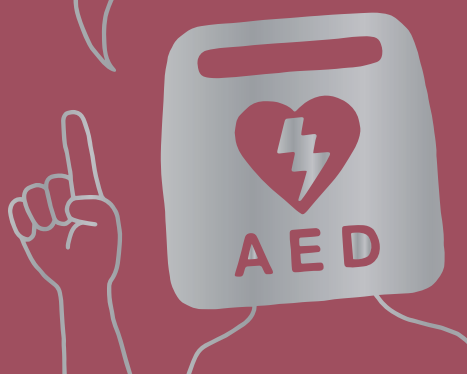
に

あ

る

?

確認よろしく!



AEDによる救命処置は、
一刻を争います。
いざという時、すぐに使
えるよう、AEDの設置
場所を普段から把握して
おきましょう。



公益財団法人

日本AED財団